

2025年度（令和7年度）教育研究

2025. 4

教育研究部

学校教育目標 「自ら学び，人間性豊かな子を育てる」
～ 未来を拓くリーダー性を育てる ～

1 研究主題

「わかる・できる・つかえる」を実感する学びの創造

～見方・考え方をはたらかせ活用を意識した単元デザインを通して～

2 研究主題設定の理由

本校では、主体的に学び続け、協働的・創造的に活動する児童の育成を目指し、授業改善に取り組んできた。令和2年度からは、学年間・教科間で系統的に資質・能力を育むことを目指し、カリキュラムデザインを通じた授業実践や交流を行ったり、児童が自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究的に活動する姿を「わかる・できる・もっとやってみたい」とする姿と捉え、教師が学びをファシリテートしたりしながら研究を推進してきた。

また、児童が自らの課題を見つけ挑戦するために、児童一人一人の学習状況を把握するとともに、つまずきを深く分析し、児童が知的好奇心を発揮し意欲的に追求する学びの場や、学びを促す教師の働きかけについて、工夫・改善する必要がある。そして、児童自身も自らを振り返り、学びを調整する力や学んだことが他の学びで「つかえる」力も高めていく必要がある。

そこで、これまでの授業改善の視点をさらに深め、児童自身が学びを実感できるようにするために「「わかる・できる・つかえる」を実感する学びの創造」という本研究主題を設定した。

3 これまでの研究

本校は研究主題を「わかる・できる・つかえる」を実感する学びの創造と設定し、国語科と算数科を中心に取り組みを進めてきました。本年度の全国学力学習状況調査の結果から、国語科では問いの意味を正確に読み取り、他者の視点や思考を使う条件を加えて文章を書くことに課題がありました。講師に桑田あき子先生をお招きし説明文を中心に研究を進め、文章を論理的に読み取るための手立てを講じました。算数科では図式化した数量関係から計算の性質を活用して文章に表すことに課題があり、環太平洋大学の前田先生をお招きしA領域「数と計算」を中心に研究を進め、数の概念理解やファシリテートの在り方について研究しました（国語部・算数部研究内容まとめ）。どちらの教科も研究授業前には学びづくり案検討や模擬授業を行い「自分ならどう授業するか」と考えながら自分のこととして授業について考えました。

4 研究仮説

児童が、教科等の見方・考え方はたらかせ、「わかる・できる」を実感するとともに、「つかえる」につながる授業を行えば、自ら学び、人間性豊かな子を育成することができるだろう。

5 検証の視点

【視点①】 単元の「見方・考え方」をはたらかせ、活用を意識した単元デザインが効果的であったか。

・単元でつける力は何か。そのための単元デザインの工夫は効果的であったか。

【視点②】 単元の「見方・考え方」に向かう発問の工夫や場の設定ができたか。

【視点③】 児童のつまずきをもとに、児童の考えを引き出すファシリテートができたか。

6 研究の内容

- ① 単元の目標に向かう見方・考え方はたらかせ、活用場面を充実させた単元デザイン
- ② 教科等の見方・考え方を明確にし、問題解決を促す発問や場の設定の工夫
- ③ つまずきを乗り越えるための支援の在り方

7 今年度の研究における目指す授業像

